

SERI NEWS RELEASE

平成 24 年 1 月 26 日

財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

平成 24 年 1～3 月期 静岡県内主要産業の四半期見通し

～「1～3 月期の見通し」は、『上昇』 1 業種、『やや上昇』 1 業種、『横ばい』 が 18 業種～

□平成 23 年 12 月実施の静岡県内主要産業（20 業種）の四半期見通し調査では、現在（10～12 月期）の業況は、『順調』が 1 業種、『普通』が 3 業種、『低調』が 12 業種、『不調』が 4 業種で、前回 9 月調査からほぼ横ばいとなった。

□1～3 月期の見通しについては、20 業種中『上昇』が 1 業種、『やや上昇』が 1 業種、『横ばい』が 18 業種となった。東日本大震災以降、持ち直しつつあった県内産業景気は、歴史的な円高ドル安にユーロ安が加わるなどにより、外部環境の不透明感が強くなっており、回復機運を失しつつある。

担当：研究部 大石 彰男

外的環境に先行き不透明感が増し、 一進一退が続く県内産業景気

(1) 業界景気の現況について

県内主要産業20業種の現在（平成23年10～12月期）の業況は、『順調』とする業種が1業種、『普通』が3業種、『低調』が12業種、『不調』が4業種となった。震災による在庫不足が解消した「自動車販売」、流通業向け案件が復調気配の「情報サービス」、家庭需要が前年並みに推移した「製茶」の3業種が『不調』から『低調』に1ランク上昇した。一方、昨年7月の地上デジタル放送移行後、主力の薄型テレビの販売が急減している「家電量販店」と、料金を値下げしても宿泊客数の上積みができないなど苦境が続く「観光・レジャー」が『低調』から『不調』に1ランク下降した。

(2) 業界景気の見通しについて

平成24年1～3月期の見通しは、『上昇』と『やや上昇』が1業種ずつとなったほかは、『横ばい』が20業種中18業種を占めており、『やや下降』、『下降』を見込んでいる業種も3四半期連続で見当たらないことから、底入れ状態が続いている。

業種別にみると、エコカー補助金の復活に加え、震災以降抑えられていた新車投入で市場の活性化が期待される「自動車販売」が『低調』から『上昇』、春休み需要など震災の反動増が見込まれる「観光・レジャー」が『不調』から『やや上昇』の見通しとなった。

このほか『横ばい』予想の18業種では、新興国を中心とした外需が底堅く推移すると見込まれる「工作機械」が『順調』のまま『横ばい』。また、ツナ缶などで三陸地区の代替需要の堅調が続く「食品・飲料」、販売が好調なスマートフォンに支えられて携帯電話が前年を上回る見込みの「民生用電器部品」、年間生産計画達成に向け増産が続く「自動車部品」の3業種が『普通』のまま『横ばい』の見通し。さらに、震災特需の反動減が予想される「食品スーパー」、「運輸・倉庫」、個人・企業ともに需要の冷え込みが続く「製茶」、「家庭紙」、「産業用紙」、「住宅」、「人材派遣」、震災の反動増が見込まれるものの本格回復には至らない「二輪車部品」、「大型小売店」、「情報サービス」、「外食」の計11業種は、『低調』のまま『横ばい』が続く見通し。一方、大型公共工事の減少が続く「建設」、設備投資マインドの回復期待が薄い「リース」、前年のエコポイント特需の反動減が続く「家電量販店」の3業種では、『不調』のまま『横ばい』の見通し。

なお、半期調査業種では、「家具」は主力の中・高級家具の需要低迷が続き『低調』のまま『横ばい』、「楽器」も輸出の苦戦が予想され『不調』のまま『横ばい』の見通し。



依然として続く歴史的な円高・ドル安に加えて、欧州の信用不安に伴う急激なユーロ安や政情不安による原油価格の高騰など、本県産業を取り巻く外的環境は、先行き不透明感が増している。東日本大震災以降、持ち直してきた県内産業景気は、本格回復の機運を見失いつつあり、今後も一進一退の状態が続くとみられる。

静岡県内産業の四半期ごとの業界景気の「現況」と「見通し」推移

年 次		平成21年				平成22年				平成23年			
四 半 期		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV (今回調査)
対象月(○は調査月)		1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫	1～③	4～⑥	7～⑨	10～⑫
業界景気の現況	好調 ☀	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0
	順調 ○	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	1
	普通 ◐	0	1	0	0	1	2	2	1	2	3	3	3
	低調 ☁	12	13	14	14	11	10	11	12	13	7	11	12
	不調 ☄	8	6	6	6	8	8	4	5	5	9	5	4
	全業種の平均階級値	1.60	1.75	1.70	1.70	1.65	1.70	2.25	2.10	1.85	1.80	2.00	2.05
	好調：5												
	順調：4												
	普通：3												
	低調：2												
不調：1													
業界景気の見通し	上昇 ↗	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	やや上昇 ↗	1	2	1	0	0	3	1	2	0	4	3	1
	横ばい →	13	17	17	18	19	17	13	15	11	16	17	18
	やや下降 ↘	6	1	2	2	1	0	5	2	9	0	0	0
	下降 ↘	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(12月調査であれば10～12月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(12月調査であれば1～3月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は、以下の通り。
 調査時点…平成23年12月初旬
 調査対象企業…県内主要20業種(187社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、半期調査業種を除く20業種の平均値。